

ひょうご

# 職親会だより

2013. 3 第30号

※ 職親会(兵庫県精神保健職親会)は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

## 【目次】

《報告 ①》兵庫県精神保健職親会15年の歩み…………… P 1

《報告 ②》兵庫県精神保健職親会15周年記念大会…………… P 2～4

○記念式典

○基調講演

○パネルディスカッション

《お知らせコーナー》

○平成25年4月1日から、障害者の法定雇用率が引き上げられます…………… P 6

報告

1

## 兵庫県精神保健職親会15年の歩み

年 度	職 親 会 活 動 の 動 向	関 連 事 項
平成9年	・ 職親会発足(平成9年7月) ・ 職親会だより発行開始	○昭和62年～ 通院患者リハビリテーション事業開始
平成10年～ 13年	・ 兵庫県精神保健福祉審議会委員に森本会長が就任 ・ 社会適応事業主連絡会開催(福崎) ・ 地域で職親研修会開催(赤穂、神戸、加古川) ・ 兵庫県障害者職業センターとの連携協議 ・ 職親会啓発用パネル作成	○精神保健福祉法改正 ○精神障害者ジョブガイダンス事業所開始
平成14年	・ 県の障害者雇用・就労支援ネットワーク会議が発足し、 参画する。	○改正精神保健福祉法完全施行 ○障害者就労・生活支援センター事業実施
平成15年	・ 森本会長が厚生労働大臣感謝を受賞 ・ 西村副会長が知事表彰を受賞	○社会適応訓練事業が一般財源化
平成16年	・ 平成16年度全国精神障害者社会適応訓練事業研修会兵庫 大会の開催(兵庫宣言の発信)	○障害者委託訓練事業創設
平成17年～ 18年	・ 森本会長が厚生労働大臣表彰を受賞 ・ 就労支援研修会の実施(西脇) ・ 地域研修の実施(川西) ・ 事業主開拓キャンペーンの実施	○障害者雇用促進法一部改正(精神障害も雇 用率に算定) ○障害者自立支援法施行(就労移行支援事業 所の創設) ○精神障害者総合雇用支援事業の開始
平成19年	・ 職親会設立10周年記念式典、近畿ブロック精神障害者就 業セミナー開催 ・ 職親会が知事表彰を受賞	○精神障害者地域移行特別対策事業開始 ○西播磨精神障害者元気アップ事業(平成 19、20年)
平成20年～ 22年	・ 職親会が厚生労働大臣表彰を受賞 ・ 兵庫県精神障害者社会適応訓練事業のてびき・リーフ レットの作成	○兵庫県社会適応訓練事業要綱改正
平成24年	・ 職親会15周年記念大会開催	



## 兵庫県精神保健職親会15周年記念大会

兵庫県精神保健職親会15周年記念大会を平成24年11月27日、兵庫県民会館・けんみんホールにて兵庫県精神保健福祉大会と合同で開催しました。基調講演では、島根県出雲市で活動する社会福祉法人ふあっと理事・所長 矢田朱美氏をお招きし、「障害者とともに生きるまちづくり」についてご講演をいただきました。パネルディスカッションでは、神戸大学大学院 橋本健志教授をコーディネーターに、職親会理事である特定非営利活動法人いねいぶる 宮崎宏興理事長ら福祉・行政・医療・当事者等の地域の様々な立場から「障害者の地域生活支援に向けての協働」をテーマに熱く意見交換を行いました。

### ○職親会15周年記念式典

1. 主催挨拶 兵庫県精神保健職親会長  
兵庫県精神保健福祉協会副会長
2. 祝辞 兵庫県健康福祉部長  
神戸市健康福祉局長
3. 兵庫県知事表彰授与式  
受賞者：兵庫県精神保健職親会副会長
4. 兵庫県精神保健職親会長感謝表彰授与式  
受賞者：兵庫県精神保健職親会副会長  
兵庫県精神保健職親会理事  
兵庫県精神保健職親会理事

森 本 稔  
橋 本 健 志  
太 田 稔 明  
雪 村 新之介（代読）

石 井 健 三

野 村 浩 之  
宮 崎 宏 興  
岡 寄 國 男

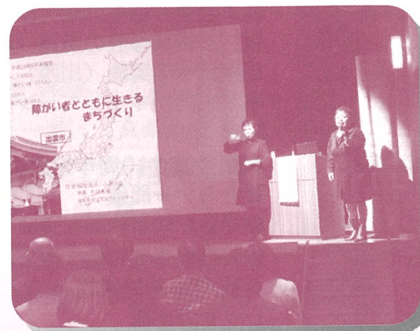


### ○基調講演「障害者とともに生きるまちづくり」

社会福祉法人ふあっと理事・所長（統括施設管理責任者）

矢 田 朱 美 氏

生活の場は病院ではなく、地域。退院ができない理由に「地域には資源がない」とよく言われます。病院、地域、行政が個々に取り組むのではなく、互いに連携してそれぞれの知識や強みを出し合いながら、協働で障害の有無にかかわらず、住民誰もが生活しやすいまちづくり、地域づくりの実践を紹介していただきました。





## ○パネルディスカッション「障害者の地域生活支援に向けての協働を考える」 各パネラーからの発表(抜粋)

### 兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課 城 友美子 氏

平成23年度の県内精神障害者の手帳所持者は29,500人で毎年増加してきている。自立支援医療の受給者も増加が続いている。地域移行・地域定着事業を平成23年度は9事業所に委託して実施し、34名が退院した。平均年齢は53歳、平均在院年数は5年。今年度より国の補助事業から一般制度化されたことで、多くの人が利用しやすい制度となった。

### 有馬高原病院 岡本 一郎 氏

有馬高原病院での病棟における、新たな長期入院患者を生み出さないための取り組みを紹介。有馬高原病院の社会復帰病棟では、全ての入院患者における退院阻害要因を記した資料を作成し、それを基に退院支援チームが1人でも多くの退院困難患者を地域へ送り出す取り組みを行っている。

### 障害者支援センター輪っふる 角野 太一 氏

障害者が社会参加できる地域をつくるためには、1つの機関だけの活動では限界があると感じ、多くの関係機関との協力・連携体制の構築に努めている。自らが必要と感じる時のみの協働ではなく、日頃からの協働が強い連携を生み出すとの理念に基づく活動を展開している。

### 特定非営利活動法人いねいふる 宮崎 宏興 氏

障害者、高齢者、子どもが生き生き暮らす町を目指した、まちおこし活動を実践している。「ミーティングに参加するだけでも大歓迎」「企業との連携」「働きながらの回復」をキーワードに、障害の有無に関わらない、地域住民全員の孤立化を防ぐ取り組みを行っている。人や場所のつながりを取り戻しながら、それぞれが元気になる活動を行っている。

### 相談支援事業所いたみコミュニティケアセンター 新垣 晴久 氏

自身が精神障害者となった経緯を紹介。その上で、現在ピアサポーターとして活動することで、うつ病のつらさ、怖さを伝える一方で、生きることの素晴らしさや、命の大切さを伝えていきたいと考えている。その活動の根底には、誰かのために役立てる人生を送りたいとの思いがある。

### 相談支援事業所いたみコミュニティケアセンター 武本 妙子 氏

ピアサポーターとしての活動をとおして、「自分と同じくらい大変な人生を送っている人が沢山いる」ことを実感している。相談者に対し無力感を感じることもあるが、相談者から「ありがとう」と言ってもらえることで、自分も救われていることを感じている。これがピア活動なのだと最近感じている。

地域や取り組む形は違っても、障害者の地域生活支援、障害者とともに生きるまちづくりにかける思いは同じでした。これまでの活動や現在の課題、これからの展望についてお話ししていただくとともに、会場の参加者とも意見交換をすることで、参加者全員で「障害者の地域生活支援に向けての協働」を考えることができました。





## 平成25年4月1日から 障害者の法定雇用率が引き上げになります

すべての事業主は、法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があります。この法定雇用率が、平成25年4月1日より以下のように変わります。

事業主区分	法定雇用率	
	現行	平成25年4月1日以降
民間企業	1.8% →	<u>2.0%</u>
国、地方公共団体等	2.1% →	<u>2.3%</u>
都道府県等の教育委員会	2.0% →	<u>2.2%</u>

## 障害者雇用率制度

「障害者の雇用の促進に関する法律」では、事業主に対して、その雇用する労働者に占める身体・知的障害者の割合が法定雇用率以上になるよう義務づけています。精神障害者については、雇用義務はありませんが、雇用した場合は身体・知的障害者を雇用したものとみなすことができます。

### ☆兵庫県精神保健職親会 会員及び賛助会員 募集中

会 員（社適事業所に限る） 年会費 3,000円

賛助会員（団 体） 年会費 3,000円

賛助会員（個 人） 年会費 1,000円 を募集しております。

☆職親会では手引き書『手伝ってください！職場への第一歩』《A4冊子版とリーフレット版》を作成しています。就労支援で困った時や啓発にご活用ください。

【事務局】 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

兵庫県精神保健職親会（県立精神保健福祉センター内）

Tel 078-252-4980 Fax 078-252-4981

お問い合わせや、ご賛同いただける場合は、上記事務局までご連絡下さい。